

令和元年度事業報告書		事業所名	デイサービスセンターしおかぜ城山	作成者	榊原 翔	作成日	R2.3.31	
目標	本年テーマ	(計画) ゆったりとした時間の中で各利用者様に合ったサービスを提供する。 (評価) 新たなプログラムを導入し活動することができたが、集団での活動が主であり、その人に合ったサービスプログラムの提供を行うまでには至らなかった。						
基本処遇及び運営	■令和元年度処遇及び運営方針に対しての評価							
	(計画)							
	①ゆっくりと利用していただく為の日中プログラムの見直し							
	②マンネリ化しない機能訓練と認知症予防プログラムの提供と改善を定期的に行う。							
	③地域の方との信頼関係の構築・城山の認知度向上							
	(評価)							
	①日中のプログラムについては適宜見直したが、ゆっくりしていただく為の空間や時間・手段・方法の改善まで至らなかった。現在のプログラムを含めて利用者の方に対し、ゆっくりと利用していただくことが必要かどうか検証していく必要がある。							
	②セラバンド講座、認知予防食講座、自立支援プログラム、スクラッチアートレク等の導入を行い、認知症予防に対しての取り組みを新たに導入し、プログラムのマンネリ化しないように工夫した。							
	③月1回の事業所訪問や城山サロンの開始を行い、地域との関わりや居宅事業所との関わりを積極的に行うことができた。							
	研修・セミナー	■職員研修計画と実績						
		研修名称	参加実績	研修名称	参加実績			
		機能訓練研修	無し					
		認知症予防研修	無し					
		他デイ研修	無し					
		岡山県地域包括支援センター 資質向上研修	西原・寺崎					
		転倒予防体操	野口					
		安全運転管理者講習	飯西					
		(効果) 外部研修会については、参加研修会の内容を変更した。資質向上研修会については、自立支援基本知識習得を目的とし、現場での実践を踏まえレポートを作成し事例を通じ利用者自身の抱えている問題点を深く考える機会に繋がり、センター全員で取り組むことができた。転倒予防体操については、新聞を使った体操を学び、現在も運動機会の確保を目的とした活動の一環として取り組んでいる。一方内部研修会については、業務時間内及び時間外問わず、計画的に実施できなかった。						
会議・委員会・内部研修	■会議・委員会計画実績・効果							
		会議委員会名	実績・効果					
		事業部会議	職員全員参加	参加率にばらつきがあり、実施できない月もあった。				
		行事計画担当者委員会	行事計画担当者・管理者	10月より実施し、余裕を持った計画ができた。				
		事故検討委員会	職員全員参加	事故内容の再認識、ケアの統一を認識する機会となった。				
		法人安全衛生委員会	榊原	参加できない月もあったが、委員会活動をフィードバックすることで職員の健康意識向上に繋がった。				
		法人地域貢献委員会	榊原	参加できない月もあったが、地域行事やサロンの取り組みを新たに実施することができた。				
		CS委員会	廃止	事業部会議にて検討した				
		筋トレ向上委員会	廃止	事業部会議にて検討した				
	脳トレ向上委員会	廃止	事業部会議にて検討した					

防災・災害	■災害訓練計画・実績			
	訓練予定月	実施月	訓練目的	訓練評価
	R1.5	R1.10	避難訓練・火災座学・模擬消火訓練	火災を想定した避難訓練と避難経路の再確認を利用者と職員共同で行い改めて避難手順の重要性を再確認することができた。
R2.11	R2.3	避難訓練・火災座学	倉敷市児島地区ハザードマップを利用し、南海トラフ地震を想定した被害状況の把握と家庭で出来る備蓄品に関する知識を再確認するこ	

行事・イベント	■月別行事・内部研修報告	
	月度	
	4月	
	5月	
	6月	
	7月	
	8月	そうめん流し
	9月	100歳祝い・敬老会
	10月	秋祭り
	11月	
	12月	クリスマス会
	1月	新年会(屋外外出行事)
	2月	節分会
	3月	花見会

(総評)
 4月の人員配置に伴い、業務オペレーションの変更を行う必要があり、ご利用者様の過ごし方やサービスの内容を大幅に変更したり、職員の役割分担を変更し対応した結果、年度当初ご利用者様の混乱を招いた結果となったが、第2四半期以降については、事業計画に沿った運営ができた。年間計画であるゆったりした時間で利用者に向けたサービスの追及という課題に対しては、ゆったりとした時間が利用者にとって必要であるか否かサービスプログラムの変更、時間の変更、新メニューの導入を検討し実践してきたが、プログラムを実践するにあたり、集団でのプログラムが主であり、個別性を重視した対応やプログラムの実践が定着しており、